

○ **【指導のポイント】**
 ○ 図表を用いた文章と無い文章とを**比較させ**、図表を用いることで筆者の考えがより伝わりやすくなることを捉えさせる。
 ○ **文章と図表とを線でつなげ**、文章で書かれていた事実が図表から読み取れることを効果的に表しているかという視点で推敲させる。
 ○ 社会科や算数科などで学習した図表やグラフを読んだりかいたりする学習と**関連を図り**、読み取ったことを的確に表現する活動を繰り返し行わせる。

○ **【見方】** **文章と図表から読み取れること**のつながりに着目する。
【考え方】 読み取った事実を関係付けることで、文章において図表を用いると分かりやすい文章になることを捉える。

○ **【予想される誤答の原因】**
 ○ **〈資料2〉** から、公衆電話が必要な理由を、**表に内容ごとに分類した目的**を捉えることができていない。
 ○ **〈資料3〉** から、**記号や印などを使って公衆電話の設置場所を地図に示した目的**を捉えることができていない。



〈資料2〉
公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つの違いを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

正答
 〈資料2〉 2
 〈資料3〉 4

1 高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている**【報告する文章】**です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】の一部

高橋さんは、**【報告する文章】**で**〈資料2〉**と**〈資料3〉**を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

○ **【指導のポイント】**
 ○ 文章の内容を的確に押さえて読むために、理由や根拠を表す指示語などに**線を引かせる**。
 ○ 文章の構成を捉えるために、筆者の問いに対する答えとなる**事実を分類し、項目を立てさせる**。
 ○ 要旨を捉えるために、筆者の問いとその答えにあたる事実とを**表に整理してまとめさせる**。

○ **【見方】** **問い(疑問)とその答えとなる文**に着目する。
【考え方】 答えとなる文が、**問いに対する理由付けとなっているのか**を確かめる。

○ **【予想される誤答例と誤答の原因】**
 (1) 食べ物がくさる主な原因を捉えることはできているが、宮原さんの**疑問に対する答えではない**ことを捉えることができていない。
 (2) 3 「水分が少なくなれば細菌は増えにくくなる」という**水分と細菌が増えることとの関係**を捉えることができていない。

(問いと事実を整理した表の例)

方法	もともとなる事実
(問い) 水分を少なくするにはどのようにしたらよいか。	水分をすい出す。
塩や砂糖を使う。	水分を少なくすることができる。
かんそうさせる。	日光や風に当てて干す。
	水分を蒸発させることができる。

- (1) 【ノートの一部】の **ア** には、**疑問に思ったこと**の①の答えになる内容が入ります。その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 水分が多くなり、食べ物がくさりやすくなるから。
 - 2 細菌が増え、水分を蒸発させることができるから。
 - 3 水分が少なくなり、細菌が増えにくくなるから。
 - 4 細菌が減り、水分を増やすことができるから。

正答 3

2 宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合うことにしました。次は、宮原さんの**【ノートの一部】**と宮原さんが選んだ**【資料】**です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

【ノートの一部】

食べ物の保存について
 調べようと思ったきっかけ
 春休みに、梅干しをもらったが、それが十年前に作られたものだと知りおどろいた。十年もたったのになぜ食べられるのかと聞くので、塩づけにしたり干したりしているからだということだった。昔の人はよくふうして食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。
 疑問に思ったこと
 ① なぜ食べ物塩づけにしたり干したりすると保存できるのか。
 ② なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか。
 調べて分かったこと
 ① 食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できる理由は、

【資料】 食べ物の保存について書かれた本のページの一部
 食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は、食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。
 では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出すはたらきがあるので、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。(以下省略)

H32 1 三

目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかをみる。

問題

高橋さんは、3 調査の結果をもとに考えた「と」の「2」に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。「2」に入る内容を、次の条件に合わせて書きましよう。

(条件)

○ 2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ 「報告する文章」にふさわしい言葉で書くこと。

○ 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十文字以内でまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

2 調査の内容と結果

(1) はじめに「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

「このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

授業場面で(事実と意見を区別し、相手に伝わるように詳しく文章を書く手立てがみられる授業)

「2」と「3」のどこをつなげて、書きましようか。

「3」の小見出しが、「結果をもとに考えたこと」となっているから、「2」の「分かったこと」が理由になると思います。

なるほど。では、「2」「3」の文を書きましよう。その際、報告文に「ふさわしい言葉」で書いてください。

敬体で書くということかな。「2」の文末を見ると、すべて敬体で書かれているから。

学習の振り返りをましよう。

グループで話し合ったことで、区別するための表現技法がいくつもあることが分かりました。それらを用いて、文章を書いたことで、伝えたいことがよく分かる文章を書くことができました。

Point
自己評価や相互評価を、取り入れ、具体的・明確に評価ましよう。

2つのモデル文を見比べ、「事実」と「分かったこと」を区別する接続語や文末表現を見付けましよう。

モデル文Aは、事実と分かったことがままとまってなくて、ごちゃごちゃしています。

モデル文Bは、「このように」という接続語で、「分かったこと」がどれかわかりやすいです。

文末表現も、「のです。」となっているから、「分かったこと」ということがわかります。

その他には、モデル文Aの「かもしれない」という文末表現が、事実じゃないことのように読めます。

モデル文Bの、「～します。」という文末表現が、実際にできること「事実」ということが分かります。

モデル文で使われている表現以外で、「事実」や「分かったこと」などを表す接続語や文末表現にどんなものが考えられますか。

Point
モデル文を基に話し合ったことを黒板に可視化し、区別するための表現方法を整理ましよう。

今書いている、「報告文」の文章の構成を確認ましよう。

「1 はじめに」「2 調査の内容と結果(以下「2」)」「3 調査の結果をもとに考えたこと(以下「3」)」の3つで構成されています。

「2」と「3」の書き方がわかりません。特に、「3」は、「2」とつないで書かないといけなないので。

「2」は「内容(事実)」と「結果(分かったこと)」を、「3」は「考え」と「理由」を区別したらいいと思います。

区別するために、何に気を付けて書けばよいですか。

区別するためには、接続語や文末表現などが大切ということをも以前勉強ましました。

Point
各段落の役割を捉え、留意することを明らかにましよう。

終末

展開

導入

めあて
「2 調査の内容と結果」を基に、「3 調査の結果をもとに考えたこと」を、接続語や文末表現に気を付けて文章を書くこと。

モデル文A
ゆでて食べる工夫があります。例えば、うどんです。麦にはいろいろな姿で食べられています。そのほかにも、小さなびせい物の力を借りてちがう食品にする工夫があります。これは、パンかもしれません。

モデル文B
例えば、食べ物をつかんで口に運んだり、水を吸い上げて飲んだりすることがあります。また、すいあげた水をシャワーのようにして浴びたり、鼻をからませ合せてあいさつをしたりすることもできます。
「このように、ゾウの長い鼻は、生活上でさまざまなことに役立つているのです。」

「2」の文
●(1)について
「このことから、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。」
●(2)について
「このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができます。」

「1」の文
なぜなら、公衆電話は、主にけいたい電話をつかうことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができます。また、公衆電話をつかうたい時には、(※以下省略)

まとめ
「です。」「ます。」「と」
「分かったこと」を、一文にまとめる。
「ふさわしい言葉」
前後の文章を基に推測

事実を書く時
文末表現
「～です(でした)。」「～ます(ました)。」「～ました。」

分かったことを書く時
接続語
「このように」「このことから」
文末表現
「～のです。」「～です。」「～ます(ました)。」「～分りました。」